

(別添4)

第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

(平成27年5月20日記載)

希望の里つばさは、施設の成り立ちから重度の障害者が中心に始まった施設です。障害の特性に応じての支援が求められており、静かな環境が必要な利用者や障害が重くても他の利用者と一緒に創作活動や作業を行える利用者のために、現在8カ所の作業室を設け使用しています。職員も担当部署は明確にして支援を行っていますが、必要に応じて他の部署の職員とも連携・協力し合って業務にあたっております。

この度の第三者評価において、この点を評価していただけたものと思います。また、職員が日々の支援業務で培ってきた技量を有効に活かされていない事も指摘されました。具体的には支援の記録方法また、貴重な実践経験の文書化(マニュアル化)が遅れており、新人職員の教育や職員のレベルアップに繋がっていない等、普段から気になっていた事柄を改めてご指摘いただきました。

この結果を活かして、業務のマニュアル化・職員の研修方法の見直し・地域の施設に対する期待に応えていける中期・長期の将来計画を地域の皆様のご意見をお聞きしながら、計画を見える化していきます。

社会福祉法人つばさ福祉会

理事長 今井照雄

